

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	大阪大学
整理番号	A09
構 想 名	GLOBAL UNIVERSITY「世界適塾」

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>本構想は、「世界適塾」理念のもとにOUビジョン2021を示し、大学と社会の共創を軸に、「社会変革に貢献する世界屈指のイノベティブな大学」を目指している。学長のリーダーシップによる明確な方針のもとで、教育・研究強化、国際化、ガバナンスの強化について進展が実現している。クロス・アポイントメント制度の利用等により、著名な教員を海外から受け入れ、教育・研究の活性化、産学連携を推進している。その結果、外国籍教員数は平成26年度から令和元年度の間約2.5倍に増加している。令和3年度には、教員について、新規採用者全員に新年俸制を適用する。</p> <p>海外留学生受入数、国際共著論文比率が増加している。さらに、産学連携の進展にも繋がったことは高く評価できる。語学力基準を明確にした職員採用の結果、TOEIC IPテストの成績が向上するなど、職員の外国語能力を高め、国際性の向上に寄与している。</p> <p>大規模公開オンライン講座の配信を平成26年度に開始、令和2年度には3.6倍の、約9万名が受講しており、講義内容等を分析することにより、コロナ禍における新しい講義形態の発展にも繋がる可能性がある。</p> <p>平成29年度中間評価参考意見については、女性教員の比率について、令和2年度には20.3%を達成した事実に加え、さらに、上位職にある女性教員の増加をも実現している。大阪大学の本事業による特色ある成果として、他大学にも大いに参考になるものと評価できる。</p> <p>一方で、世界適塾の計画達成に向けて、学生の語学力については、伸びてはいるものの厳しい現状を踏まえて、事業終了時点で目標値を達成するため、対策を講じる必要がある。また、海外への留学生数は少なく、海外からの留学生数との不均衡を改善する必要がある。</p> <p>財政支援期間終了後を見据えた自走化については、海外からのライセンス収入がこの数年間で数倍に増額していることから、この成果を更に発展させることが望まれる。</p>	